

令和 8 (2026) 年度
一般選抜前期日程 試験問題
人間健康科学部 看護学科

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 4 問題は全部で5ページ、解答用紙は全部で3枚あります。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手してください。

第1問 以下の課題文を読んで、設問に答えなさい。

これは私の訪問看護師としてのキャリアの中でも思い出深い、十年ほど前のエピソードです。

要介護5^{*1}の有田さんは、脳梗塞の後遺症で嚥下障害と失語症があって、胃瘻^{*2}による経管栄養をしていました。私が初めてお会いしたのは病棟です。胃瘻造設後も誤嚥性肺炎を頻回に繰り返すので入院が長期化し、この先どうしようかというときでした。今ほど身体抑制が問題視されていなかった時期でもあり、経管栄養の時間になると、股の下にベルトをつけて車いすでナースステーションに連れて来られていました。痰も多かったので、マスク^{*3}もつけられ、同じ場所で二時間も三時間も過ごしているようでした。有田さんの目はうつろで、表情もとても乏しい印象でした。

有田さんの主治医は医療連携室の室長も兼ねていたので、私は「お家に帰してみませんか」と相談しました。ご家族みんなが有田さんをととても大事にされていて、息子さんの妻の久美さんは入院中にも毎日のように面会に来てはベッドサイドで有田さんが元気なころに好きだった歌を唄ったり、音楽を聴かせたりしていました。息子さんは有田さん専用の療養部屋を自ら増築するなど、ご自宅の受け入れ準備も万端でした。そこで、状態が安定したところを見計らって訪問看護をスタートしました。介護を主に担っていたのは久美さんです。

「こんにちは有田さん」とごあいさつのたびに目を見ると、こちらの言うことをわかれようともして、何か伝えたいこともあるように感じました。それでご家族と相談して、麻痺のない左手で何かできることはないかと考え、鏡を見ながらひげ剃りに挑戦してもらうことにしたのです。

最初は私たちが手を添えていたのですが、そのうちご自分でできるようになりました。ある日、「きれいになりましたね」と声をかけたら、有田さんは数本残っている歯を見せてニコッと笑顔に。

その一部始終を見ていた久美さんは、涙を流しながら拍手をしていました。

「おじいさんにもまだできることがあるのね。よかったね。久しぶりに笑った顔も見たわ」

隣で見ていた私も胸が熱くなって、もらい泣きしてしまいました。地道なケアの継続と有田さんの頑張りの成果をご家族とともに実感した瞬間でした。その後、有田さんは車いすに座る練習もしました。ご家族だけで介助できるようになってからは、庭に出てお花を見ながら日光浴をすることもありました。

病院の職員に訪問看護を知ってもらう勉強会を開いたときに、ひげ剃りをする有田さんの写真を紹介しました。すると、有田さんが入院していた病棟の看護師たちから「えっ、有田さん、こんなことができるんだ！」と、歓声が上がったのです。病棟にいたときの有田さんとはあまりにも違っていたからでしょう。

有田さんは在宅療養をしばらく続けた後、残念ながら病院で亡くなりました。後日、久美さんが私たち訪問看護師を訪ねて来てくださいました。私と久美さんはぎゅーっと抱き合いました。「頑張ったよね、私」とおっしゃる久美さんに、「ええ、すごくよく頑張られましたよね」とお伝えしたことも忘れられません。

専門職はつい「何ができないか」を探しがちだ。だがこの訪問看護師は違った。有田さんができることを家族と一緒にいろいろ考えたのだ。歯磨きはむせてしまう危険があり、吸引の用意なども必要

だったので、ひげ剃りならばできるのではないかなった。そのほかにも、大きな見出しだけでも読めるのではないかと新聞紙を手渡したりもしたが、一番頑張って取り組んでくれたのがひげ剃りだったという。

(中略)

ひげ剃りや髪をとかすことは、鏡で自分の顔を見ること自体が刺激になるだろうし、実際にきれいになったと成果が見えることでもある。こざっぱりして気持ちがいいかもしれない。ただ、それだけではない気がする。特にひげ剃りは、男性なら当たり前のこととして長年続けてきた習慣だ。それが自分でできるのは、男性としてのプライド、尊厳を取り戻すことだったのではないだろうか。

有田さんの誇らしい気持ちが「やったぞ」といわんばかりの笑顔に表れているように思える。「まだできることがある」という久美さんの言葉は、そのまま有田さんの声でもある。久美さんが流した涙は嬉し涙だ。できることを見つけて支えることが患者の笑顔を引き出し、家族の笑顔にもつながる。チャレンジしてみようというケアする側からの発信は、患者にとっても、家族にとっても、すごく重みがあるのだ。

家族は患者を支えるチームの一員だ。献身的な介護を続けた久美さんにも、大変なことはたくさんあったろう。有田さんが亡くなった後、久美さんが会いたかったのはその思いを共有できる訪問看護師だったのではないか。頑張りに対してねぎらいの言葉をかけられたことで、久美さんはきっと癒されたと思う。

在宅で療養している患者は本当にきれいだ。ひげはきれいに剃られ、髪はとかされ、口の中も清潔に保たれている。でも、入院している患者はそうではないこともある。ひげや爪が伸びていたり、口の中が汚れていたり。病棟の看護師も気づいているはずだが、毎日「おひげを剃りましょう」という行動にはつながりにくい。忙しさの中でそこまで手が回らず、入院患者がそのような状態にいることに慣れてしまっているのだろうか。

医師にとって、患者の“死”は“敗北”だと言われることがある。では、“清潔感がない”ことはどうなのか。患者が生活する上で大切なことを看護師が無視して放置していることにはならないか。それは看護の“敗北”と捉えることもできる。

- ※1 要介護5：介護保険制度において要介護度の中で最も重い区分で、日常生活のすべてにわたり全面的な介助が必要な状態
- ※2 胃瘻^{いろう}：病気などの理由により、口から食事を摂ることが難しい人のために、腹部に小さな穴を開けて、チューブにより直接胃内に食物や水分などを入れる栄養摂取方法
- ※3 マスク：酸素吸入時に用いられるマスク

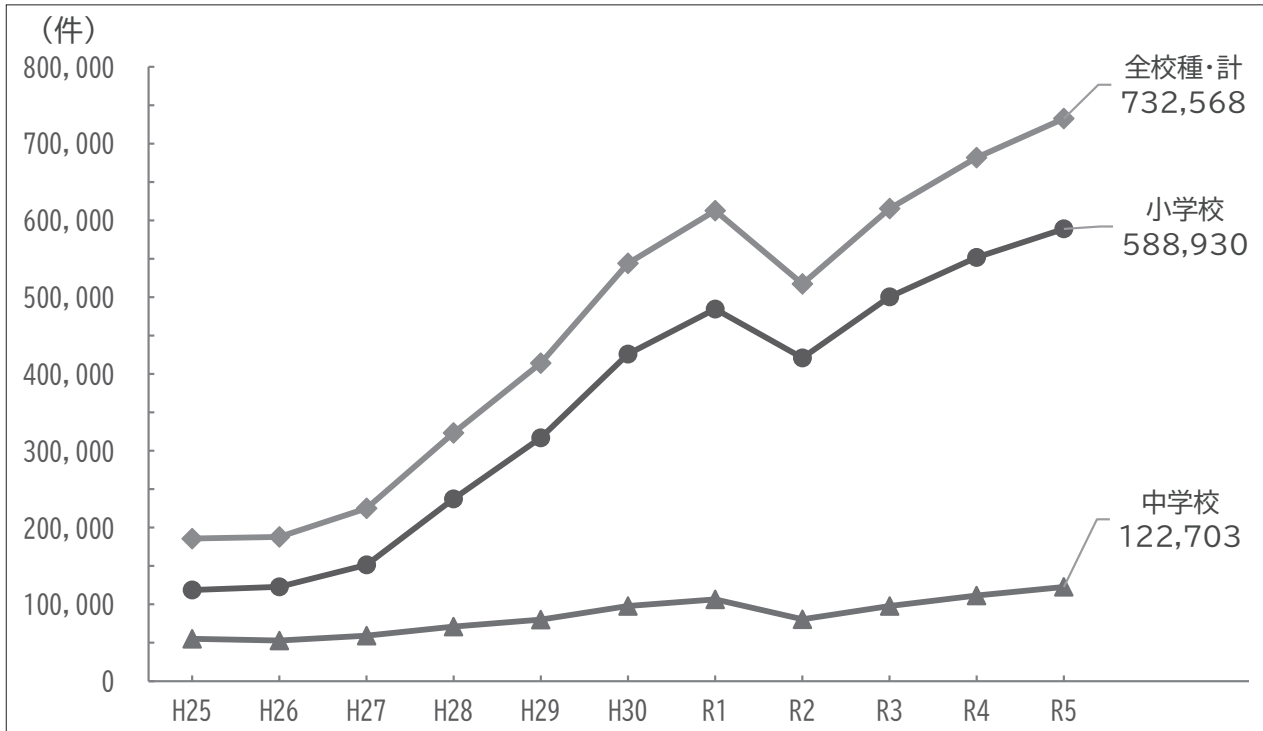
出典：井部俊子『Gift—物語るケア』株式会社日本看護協会出版会、2019、p.12-15（一部改変）

設問1 文中の下線部のように、訪問看護師が主治医に相談した後に有田さんは退院して自宅に帰りました。有田さんの事例のように、長期間入院していた患者が自宅で過ごすことの意義について、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

設問2 課題文を読んで、清潔が保たれないことによる日常生活への影響を示し、あなたの考える「清潔」について600字以内で述べなさい。

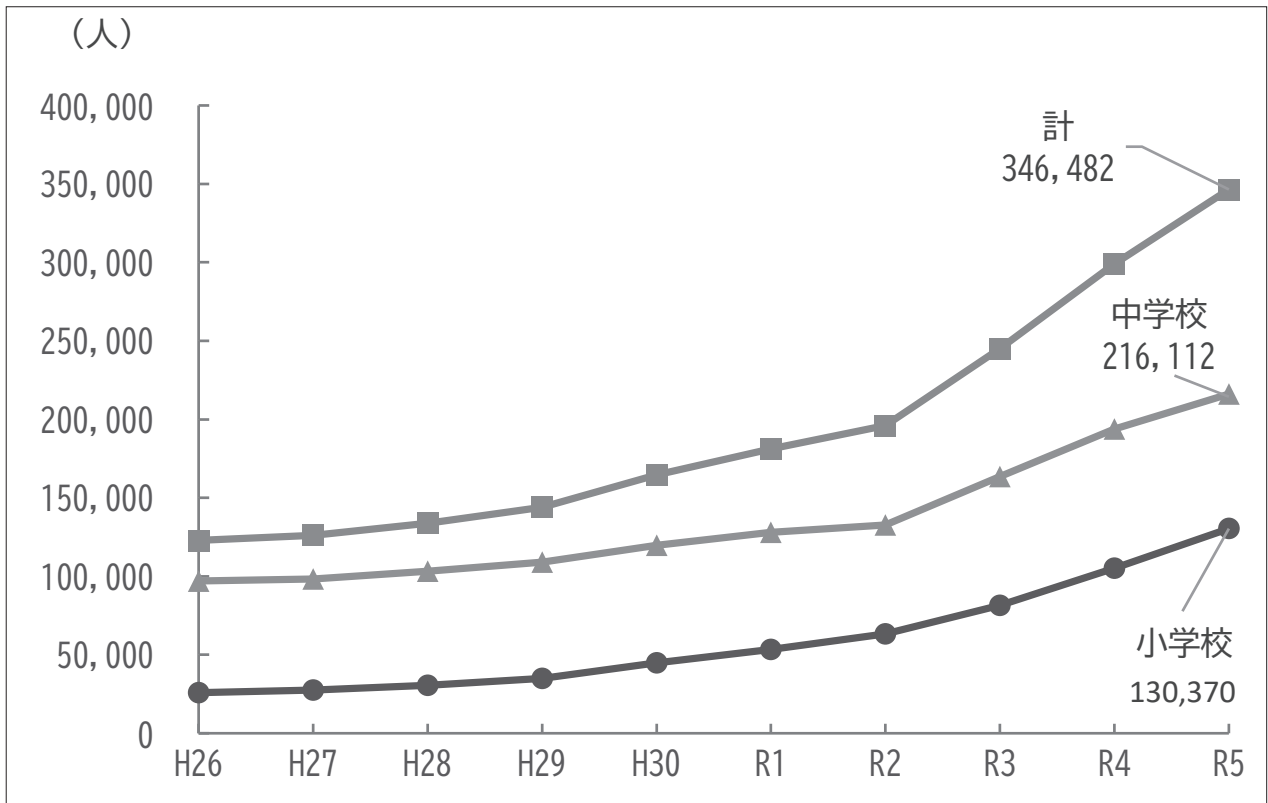
第2問 図1は、小・中学校におけるいじめの認知件数の推移を示し、図2は小・中学校における不登校児童生徒数の推移を示している。次の設問に答えなさい。

図1 いじめの認知件数の推移



出典：文部科学省ホームページ 令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要
 〈https://www.mext.go.jp/content/20241031-mxt_jidou02-100002753_2_2.pdf〉
 (2025年10月8日、一部改変)

図2 不登校児童生徒数の推移



出典：文部科学省ホームページ 令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要
 〈https://www.mext.go.jp/content/20241031-mxt_jidou02-100002753_2_2.pdf〉
 (2025年10月8日、一部改変)

設問1 図1と図2に示されているいじめの認知件数や不登校児童生徒数の推移から、児童生徒指導上の課題として読み取れる状況を2点挙げ、それらに共通する社会的要因を200字以内で説明しなさい。

設問2 図1と図2に示されているいじめの認知件数や不登校児童生徒数の推移から、令和2年前後の変化に注目してその特徴を説明し、その変化が示す課題と今後必要とされる支援について450字以内で述べなさい。